

## 令和4年度 胎内市観光活性化推進委員会〈第2回〉 議事録

### 1 日時

令和5年2月17日（金）午後1時30分～3時30分

### 2 会場

胎内市役所 5階 501会議室

### 3 出席委員

高橋晃会長、平川啓一副会長、市野瀬登委員、須貝勝男委員、須貝建雄委員、久世俊介委員、布川拓男委員、朽網裕子委員、守屋邦彦委員（WEB参加）  
観光振興推進サポーター神田圭奈

### 4 委員会傍聴者

2名

### 5 会議次第

- (1) 主要観光施設月別入込客数等の推移について
- (2) 地方創生臨時交付金活用事業の実績について
- (3) 「くるっと胎内」の運行実績と観光2次交通の方向性について
- (4) 2023 春夏シーズンの方向性と観光振興推進体制について

### 6 会議経過

別紙のとおり

## 会議経過

### 1 開会

#### ○事務局斎藤係長

皆さんこんにちは。本日は、お忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。  
ただいまから、胎内市観光活性化推進委員会を開会します。

はじめに、本日の開会にあたりまして、胎内市副市長の高橋からご挨拶申し上げます。  
高橋副市長お願いいたします。

#### ○高橋副市長（会長）

あいさつ

### 2 議題（1）

#### ○高橋会長

それでは議題（1）について、事務局は説明をお願いします。

#### ○事務局山崎主事

（議題（1）について説明）

#### ○高橋会長

今ほど事務局から議題（1）観光振興ビジョンの達成状況について説明がありました。  
質問、ご意見ございませんでしょうか。

#### ○布川委員

ここにもある数値なのですけれど、入込目標 150 万があった時代がありまして、この対象に照らし合わせるとこれというのはどれくらいの状況ですか。

#### ○高橋会長

事務局回答ございますか。

#### ○布川委員

でなければあとで教えてください。

#### ○事務局南波課長

推計という事で宜しいですか。

#### ○布川委員

吉田市長当時。

#### ○高橋会長

150 万人観光を目指すといったの時の現状がどうなっているかというそういう事ですね。

#### ○布川委員

対象施設なんかも含めて

#### ○高橋会長

そうですね。それでは後ほど、ほかはございませんでしょうか。

#### ○事務局南波課長

私から質問してよろしいですか。久世さんに一つお聞きしたい。何年か前に乙宝寺の入込がそんなものではないだろうという話があったと思うのですよ。今回も見ていて物産館の入込に比べるとこれは少ない。物産館は利用者数なので直結は当然しない。感じとしてこんなものですかね。我々は乙宝寺さんから頂いている数字をそのまま出すので、何とも加工のしようが無いしあ

れなのですけれども、どうですか感覚として。

○久世委員

仮にこれだったらうちはたぶん潰れている。

○事務局南波課長

そういう話あるのですよね。

○久世委員

何年か前にもそういう事を南波課長に相談をさせていただいたのですが、ただ乙宝寺さんがこう言っている。実際これだと本当日割りで計算すると一日10何人という世界になるので、さすがにもっと来ているというか、たぶんうちの方が入込ありますというくらいの数字だなという。

○事務局南波課長

12月150人だの300人だのそんなはずはないですよ。

○久世委員

コロナが始まったのが令和2年2月、令和元年12月って僕ら地域の若手で年越しそばを大晦日に販売するのですけれども、あの時400食出しました。

○事務局南波課長

1か月300人だものね。

○久世委員

そうですね。絶対合っているかと言ったらおそらくかなり乖離しているかな。

御祈祷した数かなっていう感覚、たぶん数字としてそこしか計れない。

○事務局南波課長

それはそうですね。数えている訳でもなく。そういった所も数字として考えていただければという所でございます。すみません、ありがとうございました。

○高橋会長

でも何となくこのままにしておくのも、ひとつ何か方法がないのかね。誰が数えるのという話になるからね。

○布川委員

その辺を言い出したらハマナスの丘の、現に何十万人とあって、それだったら方程式で出しても良いかも。

○高橋会長

推計出来るようだったら統計に基づいた推計値を出すようにしましょう。そのほか質問ございますか。

無いようでありますので、続きまして議題（2）について事務局説明をお願いします。

○事務局山崎主事

（議題（2）について説明）

○高橋会長

ただ今までのところ議第（2）でご質問、ご意見ございませんでしょうか。

○朽網委員

②の団体送客支援助成金は市が決めて補助されているのですか。それとも国からこれをやっ

てねという感じなのですか。

○高橋会長

事務局回答をお願いします。

○事務局比企主任

こちらについては市の単独事業になっていますが、財源は国の地方創生臨時交付金というものを活用しています。

○朽網委員

これは個人とかを対象にする予定とかはないですか。

○事務局比企主任

個人については①のキャッシュバックキャンペーンで、②団体を送客してくれたエージェントさん、旅行会社さん向けの助成という様な形です。

○朽網委員

それって予算よりも少ない額ということですか。半分くらいという事ですか。

○事務局比企主任

はい。

○朽網委員

すみません、③タクシー観光利用とか情報発信って今どうされているのですか。

○事務局比企主任

これからに関しては有料の広告等を出していませんが、市のホームページと駅へのポスター貼り付けだったり、そういった所での周知になります。

○朽網委員

市のホームページはどれくらいの方が見えていますか。

○事務局比企主任

そこはまだ検証出来ていないです。

○高橋会長

ホームページの現状数値については、担当課の方でおそらくわかっているはずなので、総合政策課になりますが、あとで朽網委員の方にこの位ですと、

○朽網委員

ありがとうございます。

○高橋会長

他はいかがでしょうか。後ほどそれでは一括してまた通して質問をお受けしますので、進めさせていただきます。議題の（３）です。事務局から説明をお願いします。

○事務局比企主任

（議題（３）について説明）

○高橋会長

それではただ今事務局から（３）について説明がありました。このことにつきまして質問、ご意見はございませんでしょうか。

○久世委員

胎内タク旅はいまいち把握しきれていない。それはその日に来てその日に手続きすればもう

助成が受けられるという仕組みですか。

○事務局比企主任

中条駅にJRで来て、1階の観光交流室の所に受付の方がいらっしゃるの、そこで自分が市外から来て観光で利用するというのを免許証か何かで確認させてもらって、観光利用ですよという一文の申請書みたいなものを書いていただく事により観光利用の認定書というものをその受付からそのお客様に渡して、その認定証を持った方が中条タクシーなり藤観光タクシーさんを利用した場合にこの金額分の割引を受けられるという制度でございます。

○久世委員

めちゃくちゃ便利な制度だなということで、だったら逆に何かPR不足というの、もっと申請数があってもいいのではと逆に思ったのですが、中条駅、例えば改札を出た先にそれが貼ってあるとか、中条駅普段あまり見ていなくて

○事務局山崎主事

中条駅の改札を出て目の前ではなくて、線路の上の渡り廊下といいますか、改札を出て右に曲がってガラス張りの掲示板の所に貼らせていただいているので、改札を降りてすぐ目の前に入るかというところちょっと分からない所はありますね。

○久世委員

申請の観光交流室だったら右側よりも正面か左側に、それを含めてもの凄く便利だから活用してもらえる方法があるのじゃないかな。

○事務局南波課長

PRに努めていきます。

○布川委員

同じ関連でくると胎内、9月から11月ってこれはそういう発想もあるかと理解するのですが、その下のタク旅割でしたっけ、これはどういう発想で70万位の補助金が出るだろうとどういう想定で立てているのか教えてください。

○事務局南波課長

単純に話をさせていただくと、もともとくると胎内は1年間やる予算がありまして、それと同額をこの2次交通という所で総額ありきで考えていたのですが、最初は来年度くると胎内そのままやるつもりでいろいろ考えていました。しかし様々なご意見を頂戴している中で、同じ事はちょっと難しいなという所がありまして、最初に「くると胎内」の期間、こういう期間をやるとこれくらいの経費がかかる。残りの分はこのタク旅割に充てたいという単純な計算です。

○布川委員

非常にわかりやすいけれど、蓋を開けてみないと結果は分からないと。

○事務局南波課長

そういう事です。

○布川委員

どこかでやっているのを真似たと、そういう訳ではないのですね。

○事務局南波課長

そうではないです。

○布川委員

わかりました。

○事務局南波課長

足りなくなるのを期待しています。

○市野瀬委員

タク旅割ですけれど、時間は何時まで可能なのですか。

○事務局比企主任

交流室が空いている時間しか受付が出来ないので、受付は7時～19時ですが、乗車自体はタクシーの運行時間という事になります。

○事務局南波課長

ただ観光でそんな夜にわざわざ、どこかに移動はあり得るのでしょうかけれども、夜に移動となれば泊まるくらいしか考えられないと思うのですけれど、

○市野瀬委員

二次交通と考えた時に、例えばホテルなんかも離れていて20時以降のチェックインがビジネス系の方々がいたとすると、お迎えに行かなければいけなくてそういうことがあるので、時間的に言うと

○事務局南波課長

施設の送り迎えではありませんので、そこは。

○高橋会長

朽網委員お願いします。

○朽網委員

このタク旅割というのは例えば予約した車とかにも使えるのですか。例えばタクシー会社に電話して何時に来てください、何時までお願いしますといった予約にも受付をすれば使えるのですか。

○事務局比企主任

特に制限はないので、予約したものでも対象です。

○朽網委員

車だけ予約しても今の時点だと当日まで予約できないですね。こういう予約じゃないとできない。

○事務局比企

この手続き自体は当日来てからになります。

○朽網委員

それがオンライン予約が可能になる。

○事務局比企

それは、のれんす号の方です。のれんす号はオンライン予約も可能にしようかなという話は現在、総合政策課でしています。

○朽網委員

そのフォームを書くのが非常に手間だなという印象を受けたので、すごいシンプルなフォームでもいいので何かパッと送れたらいいなと思いました。

○事務局比企主任

旅に出る前という事ですよ。わかりました。参考にさせていただきます。

○平川委員

今のあれで、そう思ったのですけれど、胎内タク割は胎内市に来ればタクシー代が半額になるよと、では胎内市に行こうかという要するに駅を降りてからあるねというではないですよ。普通は旅行者は胎内市に来るときにその後の交通手段考えてきますよね。そこにたまたま半額になるタクシーがあったと分かったってということだと正直おもしろくない。タクシー会社としてはいいですよ、乗ってくれば。いいですけどもそれでは面白くないですよ。結局それがあるから胎内市に行ってロイヤルまで行ってみようかとか乙へ行ってみようかとか、そういうふうになってもらわなければいけないのではないかと思うとなると、要はついてからの告知ではなくて来る時に選ぶ、旅行先を選ぶ時に何かしないと、あまり意味が無いのではないかな。そっちに力を入れるべきであって、さっき言ったように駅へ降りてあるねというのは、これはただ単にお客さんが半額得をするねというだけの話でプラスにはならないですよ。それだったら普通に100%タクシーに乗ってもらっても同じ。うちとしては100%もらえるのでタクシーとしてはどちらでもいいのですけれど、タクシー乗る人は最初からそういう計画で来るし、だからその辺どうやってこれから胎内市に来ようかという人にお知らせをするかという事が重点になってくるのではないかなと私は思います。それともう一つ、くるっと胎内の方なのですが、これはまあ期間限定で2か月半なのか分かりませんが、これは41万2千円の予算で前年度70いくらが期間が短くなっているから減らしていると、それでもおそらく令和4年度と今年度と同じ人数しか乗らないとなると、運行経費が1人当たり1,500円になるのですよね。今年度は737円、それでも737円凄く高いですよ。それから増えないと1,500円になってしまうのですよ、1人当たりの運行経費というのが。それもちょっと高いのか安いのか運営は考えてやらないのかなという。さっき課長の方からくるっと胎内タク割を交換し合うという形だったけれど、結果的にくるっと胎内の利用者は57%で胎内市民なのです。タク割は胎内市民は使えない訳だから、さっきの他をすくうというのちょっと違うかなという気がします。

今回、のれんす、くるっと、胎内タク割という形を一応は作っていますけれど、本当にこれでカバーできるのかなというのは来年度運営をやって行かなければいけないので、告知というのを真剣に考えてみてそれから評価して行かないと、お金は申し訳ないけれども無駄になってしまうかな。それだったら本当にのれんすの方につき込んで、徹底してのれんすで観光客から何か全部対応出来るようなシステムなりなんなりを考えていった方が、これはもう何年前からも言っているのですけれども、ただ答えが無いのでこうしたらどうかという意見が言えないから、こういう予算を使うけれどそういうふうに戻していてもどうかを令和5年度には出来るような集計の仕方をぜひ評価をしていただければ、その2つの広報の部分と評価をちゃんとできる互換し合ってみんなが抜けが無いように出来るのかどうかというところ、観光、胎内市民、両方相手なのです。凄く難しいので、その辺がまた来年のこの時期に評価する時に皆さん委員の方が分かる、辞めればよかったねとか、やった方がいいのではないのとはっきり言える様なそれもちょっとやっていただければ、すみません長くなりました。

○高橋会長

ありがとうございます。事務局何かコメントはありませんか。

○事務局南波課長

おっしゃる通りですし、そうして行きたいという所はあります。我々も何が望ましいかはまだ模索中。本当にお話のようにのれんす号のみで行くのがいいのか。様々な物も考えたのですが、時間と経費の問題でなかなかすぐには答えを出せなかったという所もあります。苦し紛れではないのですけれども。それと先ほどから話が出ている総合政策課の方で、ある程度の所のそういった事を考えているとの事でしたので、それがどの程度うまくいくかも見たい所もありますし、あとそれですべてが本当に完結できるのか。それも含めてデータをしっかり取って皆様に評価いただけるようにしていきたいと思います。

○高橋会長

タク旅割のあらかじめの広報というかお知らせというか、それは具体的に何か今こういう事をやったらとかというのがありますか。これだったら可能だとか。委員の皆様からはいかがでしょう。こうしたほうがあらかじめお知らせできるのではないかというようなご意見がありましたらぜひ聞かせいただきたいと思います。

○布川委員

その話なのですけれども、使うのは我々ではなくお客さんなわけですよね。要はお客さんがこちらに来たいなとか、来る時にあたって要は見えるもの、字ではなくのれんす号だよ、くるつと胎内だよ、胎内タク旅割ですかね。そういうものをお客さんに宣伝してもらう方法を考えないといろどり胎内に載せるとかSNSで発信するとか、そこをポイントで私は駅の通路で見た時に何だこれはと思ったのです。見て初めて行動を起こすものですねあれはと思いました。だから3つ並べて選択させるというのは一番具体的じゃないかな。

○高橋会長

他にこうしたらというのが、

○久世委員

全員に行き届かせるのも難しいかなと思うのですけれども、各事業所、例えばロイヤル胎内パークホテルとか樽ヶ橋遊園とかホームページにバナーって貼ってあるのですか。

○事務局比企主任

バナーは貼っていないですけど、胎内リゾートさんの方はSNSに上げていただいたりしていました。

○久世委員

個人的に自分が旅行に行くとなった時に、当然知らない土地の話なので知っている名前、例えばロイヤル胎内パークホテルで検索して、そこから予約、そこまでの道順とか行こうとなると調べられます。各事業所とかホテルとかのホームページが一番窓口になりやすいのではないかなと、最終的に行こうと決定する材料の一つとしてタクシーがあるみたいな、という使い方だったら、さっき平川さんがおっしゃったとおり決定する材料の一つとしてこれが利用できるのではないかなと思うので、その他に日報に載せるなりなんなり必要だと思うのですけれども、そもそもお客さんは胎内市で検索してくる人はあまりいないと思う。だったら各入口になりうる事業所、出来れば全事業所あると良いと思うのですが、貼ってもらうというのも一つなのではないかなと。



○高橋会長

他はいかがですか。こうしたらというのが。

○朽網委員

せっかくこうやって予算を取っているんで、そこをもうちょっと広報にお金を少し割くというのはどうかなというのが一つと、やはり新聞とかもいいのですけれどデジタルで残るロイヤルパークで検索して何か記事にヒットするとかこうやって来ましたと誰か体験した記事が載っているとか、もうちょっとこうやるんだみたいなこれはどんなのだろうとか、タク旅割などもそうなのですからもうちょっと想像できるようなものが、ちょっと目に入ってくるようなものがもうちょっと情報があればいいなと思いました。そんなに何百万割けとかという訳でなくていいので。

○高橋会長

たぶん電車を使って観光で胎内市を訪れる方の年代層というのはかなり高めの方が多様な気がするのですが、こういう年齢の高い方々にあらかじめのお知らせが出来る方法って何か皆さんどうでしょうか。電車で来る人ってどうなのかね。自分で調べて来るとかという方が多いのか、それともエージェントさんをお願いをしてチケットを手配してもらってホテルを予約してもらって来るとかって、どういうパターンが多いのか。市野瀬さんその辺はどうですか。ロイヤルを利用される方は。

○市野瀬委員

基本的に車以外の方のほうが少ないです。それはやはり直が、リアルエージェントに例えばロイヤルに行きたいのだけれどもと云って、足はと相談する人はほとんどいないと思います。

○平川委員

お迎えに来ているじゃないですか、時々。あれは何人でもお迎えに来ているのですか。

○市野瀬委員

1人でも迎えに行きます。さっき言ったのは8時過ぎに来るといふ人の迎えに行くというのが、ひとつやはりそれは当然うちにとっても負荷になっている。今言ったようにこれが目的としてそういう事が最初から分かっているのであれば予約もオンラインか何かで出来る様になっていけば絶対にいいと思いますね。それが無いばかりにほとんど多分これを使う人って少ないですよ。

○平川委員

だから乗ってもらえるとタクシー売上になりますよね。ロイヤルさんが負担減ってタクシーの方の収入が増える事は増えるけれども、それは観光客が増える事にはならないけれども、少なくともお客様からお金が出てくるのは間違いないのですが、ロイヤルになると無料送迎になってしまうものが、あそこまで4千円位かかるのかなタクシーだと、それがそっちを使ったださいねということを見ると、お客様が少なくとも片道2千円はお客様の懐から胎内市に落としてくれることは間違いないので、そういう使い方も、さっき言ったように本当はちょっと増やしたいのだけれども、とりあえず第一歩としてはそういうことはいいですよ、割り切れれば。

○市野瀬委員

ホテルの目の前に滑り台とかかまくらとか作って、要は雪デビューという訓練、始めて告知不足ではあったのですが、むしろこの企画に載る方でお母さん、息子とか、要は車でない人が

多い。ただそうするとうちはどうするかというと新潟駅まで迎えに行ったり中条駅まで迎えに行ったり、それは最初からうちは送迎は無いのだという事になってタクシーを半額になるから行ってみようというそういう仕組みを作った方が良いかも知れないですね。先ほどどこにアクセスというか検索してくるかという事になってくるのですけれども、

○平川委員

乙方面はどうか。前はくるっと胎内に乗って時間が無くなって駅まで送って来たなんて話を聞いたことがありますけれど、車じゃない人って乙方面っていらっしゃる。

○久世委員

車でなく来る方って本当に団体バスのツアーだったり、あとは集落でバスを借りて来ましたとかというのはほとんどですね。まず立地的にもまず車がないというのがまずないので、タクシーで来られる方もいらっしゃるのはいらっしゃるのですけれど、ただ割合として多いかというとかかなり少ないかな。ただ中にはうちは商品発送、お取り寄せしているのですけれど、行けなくなったので商品をお取り寄せするという人は結構います。運転が出来なくなったから取り寄せる、運転できれば来たいと思っている人もいると思うのですけれど、それも多いかというとなんかにたくさんではない。

○高橋会長

他はどうでしょう。よろしいですか。それでは事務局は事前告知の方法を十分検討していただくことと、令和5年度終わった後での検証がしっかりでき、それを次につなげる様な形で考えていただくということで先に進めさせていただきたいと思います。続きまして議題（4）事務局から説明をお願いします。

○事務局比企主任

（議題（4）について説明）

○観光協会

（説明）

○胎内リゾート

（説明）

○商工観光課

（説明）

○高橋会長

一旦ここで質問、ご意見ありますでしょうか。

○布川委員

観光協会のカメラ女子胎内とあって、最近見えなくなったのだけれど止めたのですか、休んでいるのですか。

○観光協会

カメラ女子の方はインスタの方であります。

○布川委員

フェイスブックは。

○観光協会

フェイスブックはないですね。

○布川委員

止めたという事。

○観光協会

止めました。ツイッターとフェイスブックは止めました。ちょっと問題がありましてその対応として止めました。

○布川委員

なんですか。

○観光協会

コロナ関係で反ワクチン派の人、その内容ではなかったのですが、いいねを押したという事で、市役所の方にカメラ女子が反ワクチン派なのだという事で投書の手紙が来まして、これの対応として一度ちょっと整理するためにツイッターとフェイスブックの方を中止しました。

○布川委員

私個人的にカメラ女子胎内というのは、いわゆる「映え」がいいねという、「映え」という言い方はあっているのかな。非常に期待していたのですよ。問題で止めたというのは非常にさびしいのですが、これと関連してリゾートさんの方で桜をテーマにして売り込みをかけるという辺り非常にいいと思うのですね。我々は桜は千本桜とかあの辺をイメージするのですが、この地区というのはあれ以上に山の桜は非常にきれいなのですよ。さっきおっしゃった様に期間が長いねという、この論法でいくと山桜まで含めると1か月間くらい見れるのですね。さっきのカメラ女子の話に戻るのですが、そういう目線ですね胎内の桜の見どころとかね、千本桜とかきのと桜とか、あと私の大好きな坪穴の一本桜とかね。あの辺をいわゆる隠れた映えスポットということでぜひ売り出してもらいたいし、そういうPR資料を作って欲しいなと思いました。以上です。

○高橋会長

ありがとうございました。他いかがでしょうか。

○須貝委員

観光協会の方ですが、観光ボランティアガイドって今現時点何名くらいちゃんと活動していて、新しく増やすという話もありましたけれども、何名くらい。

○観光協会

7名で、6名1団体

○須貝委員

それで今足りている回と、この辺の部位行っていないとかそんな具体的な所はありますか。

○観光協会

今のコースの他にどんなコースを紹介したいですかというような、お勧めしたい胎内のコースというような聞き方もしようかと思っているのですよ。団体は出来ないけれど個人であればできますと、例えば月曜日から金曜日まではダメだけれど、土日だけは出来ますとかというような幅広いような募集の仕方をしてみようと、一応登録をしてもらって今のコースに重複しないようなコースをまた新たに生かしていきたいと思っています。

○高橋会長

他に何かございませんか。

○布川委員

商工観光課の所のブドウ畑の観光活用。去年夏のどちらかという暑い時にやっていただいて、感動しながら登ったのですね。その後、秋にも予定を期待していたのだけれども、例の雨の関係で流されてしまって目論みも流れたというふうに理解をしているのですけれども、来年度はいかほどの予定をされているのか。

○事務局比企主任

秋が中止になったのは布川さんがおっしゃる通り道路が崩れたりという所もあったので、見合わせたような形なのですけれども、今年度そこが通れるのかどうかも含めてまた更に検討をして、農林水産課の方とも協議していきたいと思っています。

○布川委員

通れるかどうかというと

○事務局比企主任

道路も崩れた所もあるので

○布川委員

我々が登った所が、あの道が壊れたと。

○事務局比企主任

道自体というかたぶん圃場の辺りとかも崩れている所があるので、全く同じルートというのは難しいと思うので、

○布川委員

少なくとも収穫はしたわけだから、極端な話そこまでは行っている訳でしょう。

○事務局比企主任

どの程度まで行けるかというのは農林水産課と協議したいと思います。

○布川委員

わかりました。

○高橋会長

今の件なのですけれども、おっしゃる通りたぶん布川さんが行かれたのは主団地を登って行ってぐるっと回って副団地の方へ行かれてという事だと思えるのですけれども、あそこへ行けないと確かに栽培は出来ないのでは、行けないはずはありません。なんですけれども、担当の方から話があった通り、一般の方をそこにご案内して危険性が無いかという事はやはり確認しておかなければならないので、その辺りで担当課と充分詰めながら、ブドウ畑としての景色は私は日本一だと思っておりますので、ぜひあそこは皆さんに見ていただきたいなというふうに私自身も考えておりますし、何とか観光への活用が出来れば良いなと思っております、私も。他ございませんか。

○須貝委員

担当課の方のPR施策の方で、確か前に観光パンフレットでしょうか、「トコトコ胎内」的な冊子からペラ1の紙にしたような覚えがあったのですけれども、今の現状のパンフレット、そのまだ紙1枚のままでやっているのか進捗があったのか教えてください。

○事務局比企主任

須貝さんがおっしゃっているのは、「いろどり胎内」の事だと思えるのです。ペラ1に一回戻し

ましてその後また冊子形式なのですがサイズを少し小さくして印刷経費を落としていっぱい刷れるようにということで冊子形式に戻っております。

○須貝委員

わかりました。

○高橋会長

ここで守屋委員が参加なさいました。

○守屋委員

すみません遅くなりまして、よろしく申し上げます。

○高橋会長

ただいまの進行状況なのですけれども議題の（４）番目の前段を終わった所でありまして、推進体制についてがこれからの議題となっております。

○守屋委員

ありがとうございます。

○高橋会長

その前に各団体の話が終わったという話をしていないのですけれども、他に何かないですか。無いようですので、では議題の４番目につきまして事務局から説明をお願い致します。

○事務局比企主任

（議題４について説明）

○高橋会長

それではただいまの事務局の説明につきまして、ご質問ご意見ございませんか。守屋さんもしあればお願いします。

○久世委員

私個人は観光戦略委員というものに就任して４年前から関わらせていただいたのですけれども、最初の３年はプログラムも用意していないという中でプログラムを作り、「いろどり胎内」という情報発信ツールを作って、それをやるので一杯いっぱい３年間経ったのですけれども、それをやってきた中で年１、２回のこの会議で大体年間これくらいを目指したいみたいな数値はぼやっと存在はしているのです。その先で毎月観光戦略ミーティングでやってくださいとなっている中で、３年４年やってきたのですけれども、結果、私の個人的な感想として、このミーティングはなんで存在しているのかと思いながらやらせていただいていた。というのも結局大きな目標だけあって、あと胎内市としてどこを狙うとかどうやって攻めて行きたいとか、そういうのが無いまま観光戦略ミーティングだけで動いたので、結果的に何となくコロナが落ちついたからファミリーを狙おうとか、春だからこういうプログラムを出した方が良くないみたいなそういう進み方しかしない中で、年一プログラム、こういう売り上げが上がっていますというところにはフィードバックは来ないので、だったら別にある意味が無いのではないかとすごい思ったので、逆にさっき最後の所にあったこの中間のこの会議があって戦略ミーティングがその中に例えばこの会議がどのくらいの頻度で集まるのか分からないのですけれども、市としてはこういうふうに持っていきたいよねというもうちょっと中間の部分のディレクション、ディレクターというものの配置が難しいというのはこの４年間で良く分かったので、そのディレクションしてくれる組織があるとなればもう少し戦略ミーティングをやる意味がすごい出

てくる。こういうふうに行って行こうとなったから、であれば私達もこういうプログラムを作っ  
て行こうと話ができるので、これはちょっと見ていてぜひやっていただきたいなど、その結果こ  
ういうタイプがいいのかペラがいいのかというのも誰に渡すかによって当然話が変わってくる  
ので、そこの部分が今まですごい抜けてたなというのを感じたので、個人として最後にディレク  
ターの土台作りになるのかどうか別としてもこういう会議体という組織をされると思う。

○高橋会長

ありがとうございます。事務局コメントは、

○事務局南波課長

少し前に色々お話をいただいた所もあり、そのミーティングのあり方で様々な問題はあろうと  
いう所の話もいただき、今後連携してというお話をいただき、久世さんがお話をしていただいた  
ように、市が何を目指してどうやっていくのか。全然振り返ってみると確かに固まっていない。  
本当に大きな所でビジョンがあってアクションプランがあってそれに基づいてやっているつも  
りではあるものの、具体的にどうなのだというのを本当におぼろげでもない、さほど意識もしな  
いままやってきているという反省がありました。そこをどうしようかという所もあったのです  
が、今後、市だけ色々考えて色々やっていく、それだけでは足りないのだろうという所で観光協  
会さんにもお話をさせていただいて、今後もっと連携、今も連携していないつもりは無いので  
すが、今の連携のあり方では弱いというか観光協会さんどこを狙ってどうやるみたいなもの  
を持っていらっしゃるかどうかという問題も含め、我々も考え観光協会さんとも相談をしながら  
やっていく。そしてそのためには基本的に市外の方を呼び込む、それが観光だとするとやはりそ  
れの一番力のある所というか、取り組みやすい呼びやすい所というのはやはり胎内リゾートさ  
んの施設であったり、それを中心に人を呼ぶために我々がどういうふうを考えてどういうふう  
にやって行ったらいいのかをやっていくためには、この三者というか当然サポーターも交えた  
中でという事になろうと思いますが、それを考えて刷り合せて実際にやっていく。そこも場合  
によっては施策というか事業も予算も含めてではそのためにはこれが必要だとかそういった所  
まで我々で考えて実際にプログラムをどうするかとか、そうしなくてはいけないという認識の  
もと今少しずつお話し合いをさせていただきながら、その頻度とか内容というのはまだ固まっ  
ていませんけれども、意識してやらなくては本当にアフターコロナというかウィズコロナでは  
もう置いて行かれると思っておりますので、そのように反省も踏まえて考えております。それ  
でこういう資料を作ってもらおうようにといったつもりは特にはないのですが、結果的に今までの  
委員会でも市がこういうのをやって来た、今後これをやりますというのだけ載っていたと思う  
のですが、今回はリゾートさんも協会さんもあって、これがゆくゆくはこういうふうに市全体と  
してやっていくというものに繋がるものだというふうに考えてそういうことでやって行きたい  
と思っております。この会議も先ほどお話がありましたように、様々な方がご意見を言ってい  
ただいて、本当に市がこうするためにどうしたらいいというふうにご意見をいただいたりして、  
それぞれで考えを聞いていただいたりしてそういったものを取り入れながらやって行きたい  
と思っております。

○平川委員

さっきの久世さんの話から課長の方に答えになっているか分からないですけど、正直、観光  
協会の会長の立場というか平川個人の立場もあるのですけれど、おそらくリゾートがあるのだ

けれど、実際なにをしたらいいか分からないねというリゾートなのです。だから逆に枝とか葉っぱというのですかそっちからやって、じゃあ枝が出来ましたね、幹ができましたねってこれがビジョンだっていう、そうきているのじゃないかなという気がするのです。だから誰か作ってねという、作っていくと胎内市にあるもの活用するじゃないですか。無い素材は使えない訳だからそうするとだんだん見えてくるので、あらこういう「木」だったんだねというそっちに行っている様な気がする。今全体の胎内市の観光の作り方を見ると、だから久世さんのように本来であればあっちではそこへ行こうねと行ってから立ってくるのが普通なのだけれど、なんか逆なのじゃないかな。この戦法がいいのか悪いのか分からないのだけれど、私は観光協会の長の立場としていろんな事を考えるのだけれど、なかなか出て来ないのでよね。これも何十回もビジョンを何十回も読んだけれども、じゃあどうするのと出てこないのがすごくあって、だからこういう今のやり方をしているのではないかと、すみませんそんな気がするのだけれど

#### ○観光協会

これから先を見るのであれば、久世さんは久世さんでやっている訳だから、自分の家のまんじゅうを売りたい、売るがために乙に来た観光客のためにはボランティアで案内もしますし、無償でもやります。それも乙まんじゅう屋に連れて行くための戦略の一つになるのですよね。ロイヤルはロイヤルでやっている訳ですよ。うちうちでイベントとかをやって市外のお客さんとかにきてもらったりだとかそれぞれがそれぞれやっているのですよね。それをどこかに集まって、例えば1か月に2回なのか2ヶ月に1回なのか分かりませんが、今うち是这样していると、でもそれって傍から見るとこうだよと指摘するぶっちゃけた場がないのですよね。それが1年に1回なのですかという話。そもそもビジョンを作った時にコンテンツをいくつ作りますとうたっているの、それで作らなければいけないみたいな形に見えるのですよ。やっている事は途中で修正でもいいのではないかと思う。それぞれがそれぞれでやっていると思う。主たる観光客を連れて来たいだとか思っているところでやっている。いわゆるプレイヤーだと思わすけれど、その人達に集まってもらった中で今こういう事をやっている。傍から見たらこうだと、それは乗れるか乗れないかだということも政策としてはあると思うので、それは大局的な見地からこれにはもうちょっと予算を付けてみようかだとか、途中でそれが出来るかどうか分かりませんがここは外して別な方策でとかというのはアドバイスのことをしてもらえとかそれをトータルで見るのが観光ディレクターの役目なのかなと思うのです。

#### ○高橋会長

ありがとうございます。市野瀬委員お願いします。

#### ○市野瀬委員

いま皆さんおっしゃるように連携が無さ過ぎてそれが効果測定も無く、「いろどり胎内」は何のために作っていてこんなにいいものがどこに発信されてどういう経緯でこれを見た人たちが集って来てくれているのかその測定が無いというか、実際はお金を使うのであれば使うためにまずこれを市外に発信する場所が必要だと思うのですよね。そういった所を落とし込んでいかないとどんなにいいものを作っても結局は自己満足になるのかと思います。我々はやはりお金を使うのであれば当然効果測定をして、これが正しかったか正しくなかったかということの結果が必要になってくると思うのですね。そう言った事を見ると久世さんの所に例えばまんじゅうを買いに来る人が山ほどいて儲かっているならいいけれども、でも胎内市に人がいっぱい来

てそこへ行ったらちょっと変わったまんじゅうがあるのだよということをまず分かってもらうために何を発信していくか。それは個人がやるのではなくて胎内市全体が力を合わせていくべきものかなと思います。うちへ泊りに来る人達がそのまま帰るのではなくて、胎内市をどこか回って帰っていく、そのために今回5千円と千円のチケットありましたよね。今あれもちょっと自己満足的なもので本当に胎内市だけで3月までは使えるのだけど、また来てねという意図は分かりますけれども、本当にそれをするためにはもうちょっと魅力的な使う場所というかそういったものを発信していかなければいけない。その辺がたぶんこう抜けているのではないかなというふうに思うのですよね。私共のロイヤルとして単体で動いても知れているのですね。来た人は温泉入って食事をして帰るかもしれないけれどもそれでは物足りない。やはり胎内市として何かあそこへ行ったらこんなことがあるということをセットにして行かなければいけないと思います。

○高橋会長

布川委員さんお願いします。

○布川委員

今までこういう会の中でディレクターだと言って、言い方が悪いけれどどういうふうになっているのだと乱暴な言い方をして、前回の委員会では守屋さんとか平川さんの意見を踏まえて事務局としての答えを出しなさいねとそういう宿題の結果が今日のお披露目になったというふうに捉えます。私も輪の中にいるので布川なりの考えを頭に描くと覚えないので書いてきました。これを読みます。布川のディレクターの考え方、①本来のディレクターの意味は製作に責任を持つ、プログラムの企画・立案・製作に関することなので今のサポーターのミッションを、サポーターというのはディレクターという意味のミッションを果たしていると思います。ところが胎内市が観光ビジョンで期待したディレクター個人を配置するのは、人材面及び財源面において難しいという理由で現在に至っています。では、個人の配置が難しいのだから、今ビジョンのミッションを果たすためにはチームとして対応するしかないと思います。しかし、同様の目的でさっきから話題になっているミーティングでしたっけ、ミーティングというグループが存在している訳です。すでに。まとめて全員でディレクターの仕事をやっていないとそういう方向付けが出来ていると私は思っているのですよ。ビジョンが目指すディレクターを本物に仕上げていくためには、今あるミーティンググループですかそれを肉厚にしていくのが現実的かつ効果的だと思います。連携の取りまとめをやっているのが今のサポーターで神田さんですから、サポーターという名前は辞めちゃってディレクターにしちゃうと名前を。それをやればディレクターサポーターという論争はなくなるわけですよ。では、本当にビジョンが設定したディレクターを務められるかというとなかなか難しいと、それは神田さん本人も分かっているんじゃないかなと思います。よって、新しくなったディレクターね。今定義したディレクターをサポートするためには、市民応援隊というのを設けることを提案します。市民応援隊というのは、今教育委員会の方で生涯学習人材バンクというのをやっていますよね。ああいうイメージなのです。自発的に応援隊に手を挙げてもらって、そのディレクターが要請あった場合に限って。神田さんが来てねとその人を呼んだ時に行ってその連携会に参加する。要は前回の会議で会長がおっしゃった、私は地元の人がディレクターになればいいねとそれは私も大賛同です。つまり私の今の発想は、地元のことは地元の人が一番良く知っていると、地元の人はいわゆる神田ディレクターのサポ



ートになればいいのですよ。

○高橋会長

ありがとうございます。今いろんな方向で観光振興ビジョン、大きいところがあって、それをどうやったらうまく進めて行けるかというそこが最大の論点になっていて、なかなか私自身が今の話をまとめるというのが難しい状況になっておりますが、そこを踏まえた中でサポーターの神田さんから一言お願いします。

○神田委員

布川さんの話、私なぜかすごくよく分かったのですけれど、名前はぶっちゃけどっちでもいいということはありません。このビジョンの中でディレクターとかサポーターとか出ている訳で、比企さんが表にしてくれたのは実働部隊、プレイヤーとマネージメントをしたりとかリーダーシップを取ったりする人たちが兼任できないような状況になっている。私久世さんと話して観光課に紙一枚持ってお話しに行った時も、戦略連携ミーティングというものがあってそれに肉付けしてそれで回せばいいと言っているけれど、それが出来なかったからそういう私と久世さんでこうしたらどうですかという提案をしたのですね。それは担当課レベルでは組織が動かなかったりとか、観光がうまく進まなかったりとか本来「いろどり胎内」もそれぞれのリゾートさんとか観光協会がコミュニティを持っていて、そういう目標とかこういうふうにやって行きたいというものを意見を出してもらって、それが担当課で集まってそこで戦略連携ミーティングで話し合いになってこういう方向性にしていこう、次のシーズンはこういうふうに進めて行こう、こういうのをして行こうとか、そういう話まで出来ればよかったのですけれど、そういうのが会議まで下りてきていない。目標も降りてきていないしというのが出来なかったから、本来「いろどり胎内」そういうみんなが売りたいものとか一つの目標に向かって行くための、売りたいもの集約したもののただの媒体な訳であって、その前段の話が戦略連携ミーティングではできなかったからこういうそれより上の全体のリゾートさんと観光協会とサポーターと商工観光の話をシーズンごとに設けていくという事になったんです。それをやはりするには、私がディレクターになろうがサポーターになろうがどっちでも良くて、そのディレクター側の仕事をその全体の会議でまとめていく。それを動かしていく実働部隊が戦略連携ミーティングになっていくということで理解したのですけど合っていますよね。なので私がサポーターになろうがディレクターになろうがどっちでもいいというか、みんなが個々で動いて行くというよりは全体の目標を皆で共有して動いて行くという方向性になって行けばいいなと思います。

○久世委員

本当にそういう事でプラス先ほど須貝事務局長が言った通り、外から見た時にこうやっているのはどうなのかという共有も当然必要だと、今の当初の理想の動きをしてきた分にはどうしてもそこをディレクションする組織か何かで、先ほど来スタートが枝葉から始まった状況で、そうすると本当にどこに伸びて行っていいのかが見えない状況がどうしてもできてしまうので、さっき目標をどこに定めたらいいか解からないという話があったのですけれど、正直目標は何でもいいのですよ。この会議で韓国に商談かけますと決めてもらえればそれが成功だろうが失敗だろうが韓国に向かっていけるので、それすらないのが今の胎内市だなというのが、意見をさせていただくとそういう実感があったので、そもそもそんな観光にもともと特化していた市ではないので、まず目標を定めていくというその流れ作りをするところからなのではないかなと

いうのをこの3年やって感じたという話です。

○高橋会長

他にございませんか。

○平川委員

すみません。毎年ディレクターの件、私の方でいろいろな話があって、私も正直言って名前なんてどうでもいいのですよ。名前なんていうのはディレクターであろうが何であろうが、ただ最初に思ったのは要はいろんな人と繋がりを作って集めて、実働部隊というのは無かったですよ、ディレクターって私の頭の中は。お前ちょっとこっちへ来いよとこういう事をやるからこっちへ来いよとかと言って対胎内市役所も同じなのですね。今商工観光課さんとしてさっきの話の中で農林水産課だとか出てきますよね。ここにはない訳ですよ。そんな時に例えば関係なしに総合政策も来いとそういうのが出来るような人というのはイメージだけなのです。こういう話をしたいから久世さん来てよとかとこう何か出来るような、どうだろうねとそんなもうなっているからその会議というのではなくてそれが出来る能力のある人がたまたまディレクターと呼んだだけの話で、ディレクターであろうが何であろうがいいのです、名称なんていうのはどうでもいいのです。そういうことが出来ればいいかと、今ご提案色々いただいているのもいいのだけど、私を感じたのは要するに行政の方も縦割りの話、われわれ民間の方も案外とありますよね。利害関係がどうのこうのとか関係なかったとあって、関係ないからいいよとって本音があったり、いろいろするので、そうでなくて胎内市全体が観光って総合産業なので潤えば必ず自分の所に帰ってくるのだけど、なかなかダイレクトで利益がこないとやらないとあってすごく多かったので、それらを引っ張れる様ないい人がいたらいいなというのが名前がたまたまディレクターという話なのでそれが決まった事でもなんでもないのですよ。何回も話しをしているのですけれど、ちょっとだけ分かっていただいて、私も同じです。名前にこだわっている必要は全くないという。

○市野瀬委員

胎内市として行政も含めて何を売るとかという明確性がたぶん無いのですね。観光とは何ですか。たぶん答えられる人がなくて、そこがまず決まらない事には先へ進めないのだと思うのですよ。たとえばNSGと連携して何かやりますということが行政として決めるのであれば、開志がバスケットで優勝したならば市を上げてパレードをしろとは言いませんけれども何かやるとか、というようなそういう事をみんながやるという、そういうことからスタートではないかなという気がします。実際、私はホテルだから一応売るためにはどうするかといういろんなプランを考えたりしますが、ただ点だけで別に何も広まっているわけでは無くて、まずお客様に何を目的として胎内に来てもらおうかという事を皆で明確性を作っていくというその必要性は思います。

○布川委員

今おっしゃったことは観光ビジョンの中にしっかり書き込まれているので、いまさら何をどうかというそういう話でもないような気がします。

○高橋会長

振興ビジョンの所には戦略があって、要するに戦術の部分になった時にその戦略と戦術のつなぎ目、そこが共通の理解としてみんなを持っていければいいのだけれども、その部分が共通

の理解になっていないという所がやはり問題なのではないのかなという気が話を聞いてしております。守屋さん何かコメントをお願いします。

#### ○守屋委員

ビジョンを作った立場としても思うところはあるのですが、今リモートしている最初の方に平川さんがおっしゃっていた何を指すかという話とか、そういう中でもこれって正直両方やっても行かないとダメというか、現実の所を動かしていないと理想はそこが違うかなというのもあるし、でも理想を立てないと出来ないという所もちろんあるので、それは特にコロナ禍でかつまだまだ当時プログラムとかがなかった中で、やはり一定の形を作っているところと久世さんや神田さん始め皆さんがご尽力されているという所で、それが見えてきた中でのある種の次のフェーズの課題になって来たということなのかなというふうにちょっと思っているというのが正直な所なので、これはどっちがいいとか悪いとかではなくて、そういうふうに見ながら現場を見ながら回しながらやるしかないのかなというのが現実的な所かなとちょっと思っている。他の地域を見ても結局それはそうだろうなというふうに思っています。というのは一つです。2つ目というのはいま神田さん、久世さんからお話が合ったような所の平川さんからもお話ありましたけれど、皆さん言っている事はたぶん同じですし、布川さんの整理もその通りだと思って、名称は正直どうでも良くて、現場をまとめていただいてきちんとそこで現実で実働で動いて行くための連携とまとめをするという方が今神田さんがいて、それがうまく機能しているという形ができているという、それは本当にそれは実績として全然それは成果が上がっている事だというふうに資料でも整理していただいていると思うのです。その通りだと私も思っていますし、その上でどういうそれこそ観光の武器がどうでそれに向けて胎内でこういう現実があり現状の資源を急に降ってわかせる訳でもないの、今ある中でそれを今の市場なりへ向けてどういうふうにやっていくべきか、そのためにどういう役割の人を集めるか。平川さんがさっきおっしゃっていましたが、いろんな人に声を掛けながら作っていく。それは別の方向性を作っていくという意味で、商品を作る人ではなくて方向性を作って、それこそぶっちゃけて言えば予算をどこから取ってくるかとかどの補助事業をさがしてくるかと同じ行政の方々とやり取りしながらやるみたいな、それをある人はその辺を全部理解しながらうまくまわせればそれは一番理想であったし、そういうふうになれるといいのではないかなということでビジョンに書かせていただいた訳ですけど、それはなかなかそうはいっても現実的に難しいという所があるのがもちろん良く分かるので、その中でたぶん資料でも書いていただいている会議体を組織するという所に落ち着いてきたのかなという所かなと思います。プレイヤーここに書いていただいている通り、観光協会さん、商工観光課さん、胎内リゾートさん、それにサポーターさんが入って実戦とのつなぎをするという意味で、これはたぶんこういう形でやるという事はたぶん現実的に1人がディレクター、当時ビジョンで言っていた人でなくてもそれを何人かで役割分担してやるという事が当然そういう必要があるだろうというふうに思っています。そうはいってもこの中の人みんな並行で担当がよく変わる様な話ではあまり意味がないわけなので、そこにきちんとコミットするというか関わる人をそれぞれの組織から1人なりを出して、3人4人とかで結構なペースでやりとりして議論をしていくというような、そして決めていく。それを神田さん、今のサポーターの方の役割として実働の方にそれを機能させていくというそういうたぶんやり方を進めていくという事なのじゃないかなというふうに、今までも皆さんがたぶん何

となくという話を総合する話で、そういうふうに行っていくという事が当然の現実的な所かなと思います。あとはちょっとこれは状況が私も分からないのですけれど、たぶんビジョンを作って、アクションプランというものを作ったりした中で、何年か経過してコロナもちょっと状況が変わってくるという中で、たぶんその辺の見直しをしてそのつながりが悪いとか、何を指すべきかというのが難しいのであれば別にはそれは何か互いにプランとかとって仰々しくやらなくても、うまく見直すような内々の計画でもいいのですが、それ以外の方向性もまとめるような何かペーパーみたいなものを作る様な作業といえますか、そういう事をプランの改定等々というような事を考えてもいいタイミングではないかなというふうには個人的には思ったりしているところです。以上です。

○高橋会長

ありがとうございました。どうでしょうか、みなさん。なかなか今日受けた意見をすぐまとめてというのは難しい訳ではありますが、いま守屋委員の方からはアクションプランをローリングする必要がある時期ではないのだろうかというような意見もいただいた所です。いろんな意見が出まして、この推進委員会って年1回なの。

○南波課長

回数は決まっている訳ではないのですが、2回を目指しています。

○高橋会長

せっかく今日いろんな意見が出て、それを事務局で整理をして必要に応じてアクションプランをローリングというような課題を明確に出してきた訳でありますので、その意見を踏まえた中でまた一歩進んで次の会議に臨めればというふうに考えていますが、議題の中でこの他、議題の中でご意見ご質問いかがでしょうか。

それでは予定された議題につきましては以上でございますので、進行を事務局にお返しいたします。

○事務局斎藤係長

それでは皆様長時間の議論、大変ありがとうございました。本日いただいた議論を踏まえて今後の施策に活かしていきたいと思っております。終りに平川副会長から本日の総括をお願いしたく存じます。

○平川副会長

皆さんお疲れ様でした。守屋さんありがとうございました。次回はぜひリアルで議論をさせていただければと思いますのでよろしくお願いします。本当に忙しい中ありがとうございました。冒頭会長の高橋副市長からもお話ありましたけれども、コロナがアフターになるかウィズになるのか解からないけれども全国各地で3年間を取り戻そうということで観光に力を入れています。いろんな工夫もしています。胎内市は決して強い観光地ではない。ただし魅力は凄くあると思います。ぜひ皆さんの力でこれは短期というよりも長期でぜひ観光で勝てる胎内市を作って行きたいと思っておりますので今後とも皆さん色々ご指導よろしくお願いしたいと思います。本日はお疲れ様でした。